

Ⅱ 幸せを実感できる生涯の学び

Ⅰ 人生を豊かにする生涯の学び

人生100年時代において、市民が生涯にわたって主体的に学習活動や読書活動に取り組むことは大切です。学びが地域に力を与え、生きがいや人生の豊かさにつながり、学びによって誰もが幸せを実感できる「生涯学習社会」の実現を目指します。

（Ⅰ）学びが拓く豊かな人づくり

① 現状と課題

人生100年時代は、これまでの3ステージ(教育→仕事→引退)の人生モデルから、人生の変化に応じたマルチステージモデル(結婚、出産、育児、介護、病気、退職など)へと転換すると言われています。このようなライフスタイルや価値観が多様化する中、あらゆる世代が生きがいを感じながら生涯にわたって主体的に学ぶことができる学習機会の提供に加え、地域の身近な課題を市民自らが学習することで課題解決を図り、学びを通じた地域の人づくりにより、地域自治の推進や活性化につながる取組みが求められています。

生涯学習センターは生涯学習推進の中核的な役割を担っており、社会の要請や市民の学習ニーズ、本市独自のテーマ等に対応した各種講座を企画し提供しています。また、地区公民館においては、その地域の課題解決や学習ニーズに応じた学級・講座を開催しています。しかしながら、生涯学習センターの市民大学では市民の参加が一部にとどまっている現状であることや、生涯学習センター、地区公民館のいずれも参加者の高齢化や固定化が進んでいることから、若年層や働く世代の参加を促す必要があります。

② 方針

〔生涯学習機会の充実〕

- ア 市公式 LINE などを活用し、生涯学習センター「えちぜん市民大学」(※用語解説)の情報発信を積極的に行います。また、生涯学習センター主催講座に加えて、センター以外の他部署の企画講座や市内大学の公開講座などとの連携を進め、多様な学習ニーズに対応した講座の充実を図ります。さらに、単位制を用いて参加の意欲を高め、継続した学びにつなげます。
- イ 市内団体等の主催する学習会に登録者を講師として紹介または派遣する「市生涯学習リーダーバンク」の活用について、積極的に周知し、市民の生涯学習を支援します。
- ウ 地区公民館においては、身近な地域の施設であることから、子育て、健康、介護など、各年代のライフスタイルに沿った講座や、歴史文化や自然環境、多文化共生など地域を題材に、幅広い年齢層が交流し、地域に対する愛着心を共有できる機会を提供することで、市民の自主的な活動を促します。
- エ 高齢者層のデジタル・ディバイド(情報格差)対策など、新しい技術に対応する学習機会を設けます。

③ 関連する計画

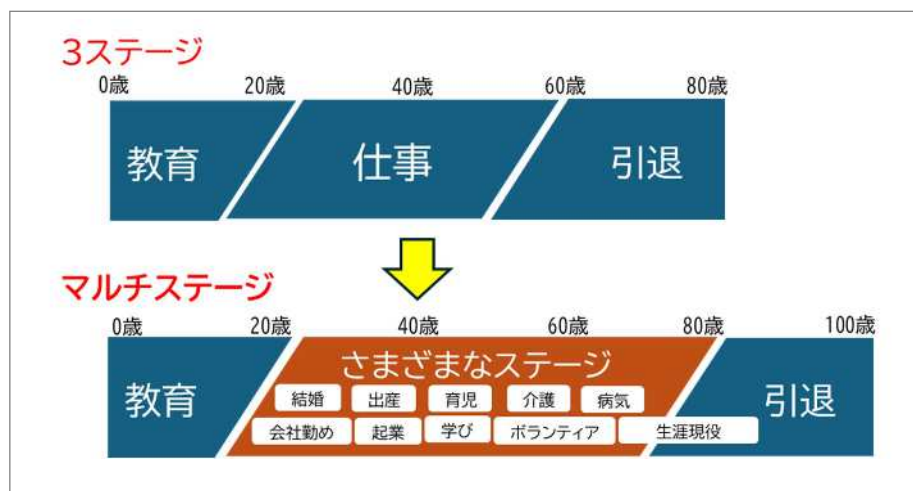
- ・市多文化共生推進プラン
- ・市男女共同参画プラン

④ 優先的に取り組む事業

- ア えちぜん市民大学の周知及び充実
(講座メニュー、単位制度)と参加促進
- イ 市生涯学習リーダーバンクの利用周知及び
多様なリーダー人材の発掘
- ウ 防災、高齢化、人材育成、多文化共生、デジ
タル化など、地域の課題やニーズに応じた
講座の開催



生涯学習リーダーバンクを活用した出前講座



人生100年時代 人生モデルの転換



えちぜん市民大学 開講記念講演



えちぜん市民大学「ふるさとお宝めぐり」

(2) 学びでつながるまちづくり

① 現状と課題

地区公民館は、社会教育施設であるばかりでなく、地域の自治振興会をはじめとした様々なコミュニティの活動拠点であり、地域自治の拠点としての役割を担っています。また、同じ趣味を持つ仲間が自主講座が活発に行われていますが、一部ではメンバーの固定化や高齢化などの課題も見られます。

さらに、少子高齢化や人間関係の希薄化などにより、地域の社会教育関係団体では、担い手が不足し、組織活動のマンネリ化や弱体化だけでなく、組織の維持が困難となることが懸念されています。担い手となる後継者をどのように確保・育成していくかが課題となっています。

若い世代はネットを活用した個々の学習が多く、地域での交流が薄くなっていることがうかがえます。世代を問わず、身近な地域で学びの場をつくり、そこに人が集い、共に学び合うことでつながりを深めていくことが必要です。

② 方針

〔地域での交流機会の創出〕

ア 地区公民館においては、身近な地域の施設であることから、子育て、健康、介護など、各年代のライフスタイルに沿った講座や、歴史文化や自然環境、多文化共生など地域を題材に、幅広い年齢層が交流し、地域に対する愛着心を共有できる機会を提供することで、市民の自主的な活動を促します。(再掲)

〔自主講座の立上げと活動の支援〕

イ 公民館だよりやホームページ、SNS 等で自主講座の新規参加者を呼びかけるとともに、新たに自主講座を立ち上げたい人へ必要な助言・支援を行います。また、他地域で同じ趣味を持つ人を各公民館がコーディネートし、交流の場を設け、相互理解を深めることで活動の活性化を推進します。

ウ 自主講座グループの学習成果を館内に展示したり、地区の文化祭等で発表したりするなど「成果発表の場」を提供することにより、市民の学習意欲を高めます。

〔社会教育関係団体の支援〕

エ 社会教育関係団体の実情に合わせ、活動や組織づくりの支援を行うとともに、活動を周知し地域活動の担い手となる人材の発掘と育成に努めます。

〔若年世代を育てる環境づくり〕

オ 若年世代の学習機会を設けたり、地域活動を支援したりするなど、各地区自治振興会と公民館が連携して、地域で活躍する若年世代のリーダーの発掘及び育成に努めます。

カ 「二十歳の式典」と各地区の「二十歳のつどい」について、実行委員による主体的な企画・運営を支援します。



高校生の活動の様子（王子保公民館）

③ 関連する計画

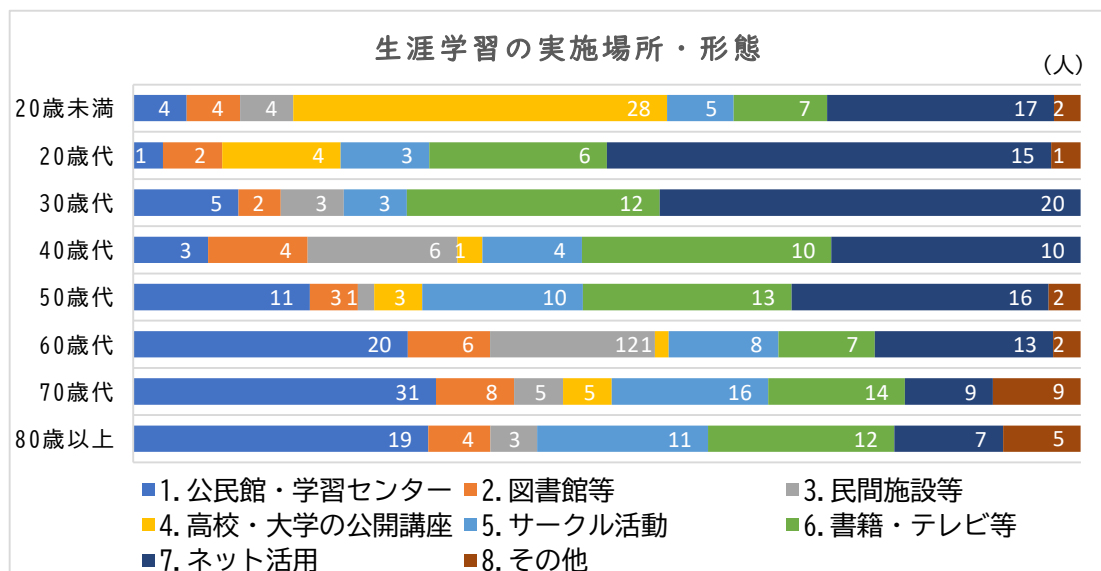
- ・市多文化共生推進プラン
- ・市男女共同参画プラン

④ 優先的に取り組む事業

- ア 防災、高齢化、人材育成、多文化共生、デジタル化など、地域の課題やニーズに応じた講座の開催(再掲)
- イ 社会教育関係団体や市民活動グループの活性化・活動支援
- ウ 自治振興会と公民館が連携した若年世代の人材発掘・育成
- エ 「二十歳の式典」と各地区の「二十歳のつどい」の開催

● 市民アンケートの結果（５）

（３つまでの複数回答）



生涯学習に関する市民意識調査〔16歳以上の市民〕（R6実施）

※対象 無作為に抽出した16歳以上の市民2,000人（回答率：30.6%）



二十歳の式典
実行委員会

(3) 学びを支える環境づくり

① 現状と課題

地区公民館は、市民の生涯学習の場・地域活動の拠点であるとともに、災害時においては、地区拠点基地や自主避難場所にも指定されています。

しかし、大多数の公民館は築40年以上が経過し老朽化が進んでいます。中には耐震性に劣っているものもあり、施設の耐震化や機能更新を計画的に進めていく必要があります。

また、デジタル技術の活用等、生涯学習センターや公民館のデジタル化を推進することで、活動の効率化が図られたり、高齢者・障がい者、外国人等の個々のニーズに応じて生活に必要な学び・学び合いを支援できたりするなど、新たな学習環境の可能性が期待できます。

② 方針

[持続可能な施設改修]

ア 公民館の耐震改修や老朽化した設備の更新を計画的に行うとともに、バリアフリー化や部屋の配置の見直し等、誰もが利用しやすい施設を目指し、機能の更新を図ります。

[ICTの活用]

イ SNSによる学習情報の発信、オンラインによる受講受付や事務連絡、アンケート受付など、デジタル化を推進し、利便性の向上や業務の効率化を図ります。

ウ 時間の制約があるなど、会場に足を運ぶことができない状況においても学習の機会が確保できるよう、一部の講座でオンライン配信(オンデマンド配信)を取り入れます。

③ 関連する計画

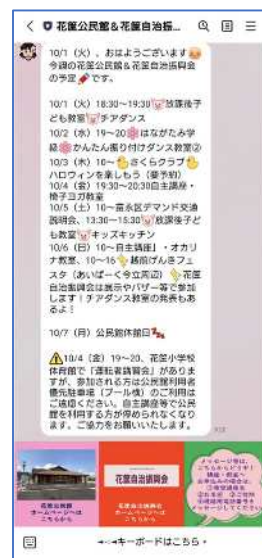
- ・市教育施設等長寿命化方針
- ・市公共施設等総合管理計画

④ 優先的に取り組む事業

- ア 施設の耐震化や機能更新の計画的な推進
- イ SNSを活用した情報発信
- ウ オンライン受付など利便性の向上と事務の効率化
- エ 生涯学習センターでのオンライン配信(オンデマンド配信)講座の実施



改修後の白山公民館（バリアフリー・耐震化）

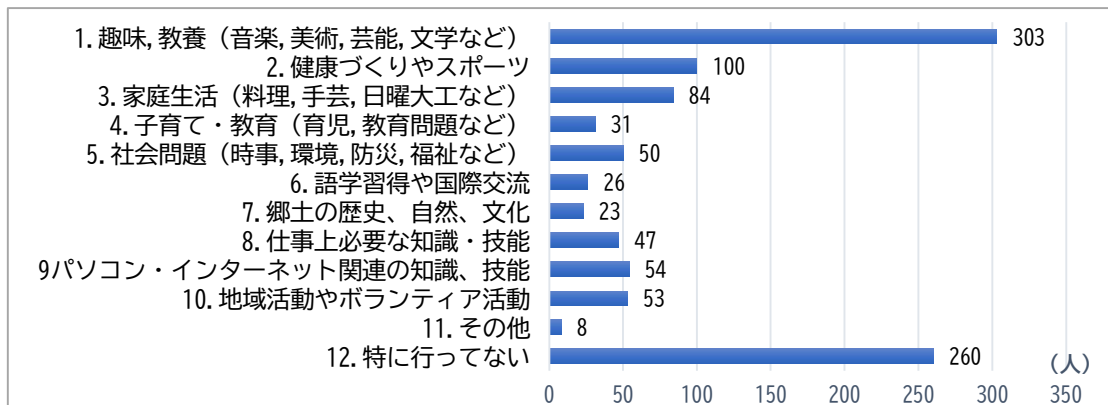


LINEによる情報配信
(花筐公民館・花筐自治振興会)

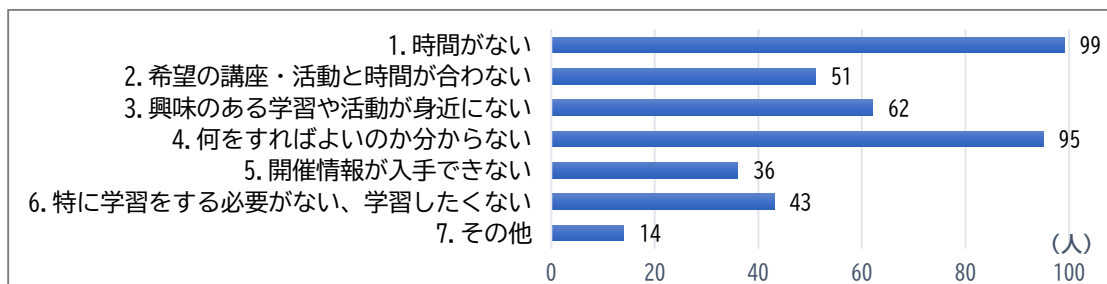
● 市民アンケートの結果（６）

（３つまでの複数回答）

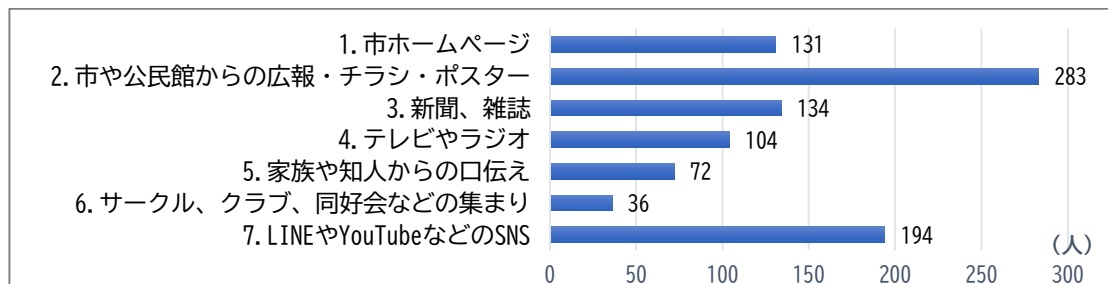
Q. あなたは、この１年に、どのような生涯学習をしましたか。



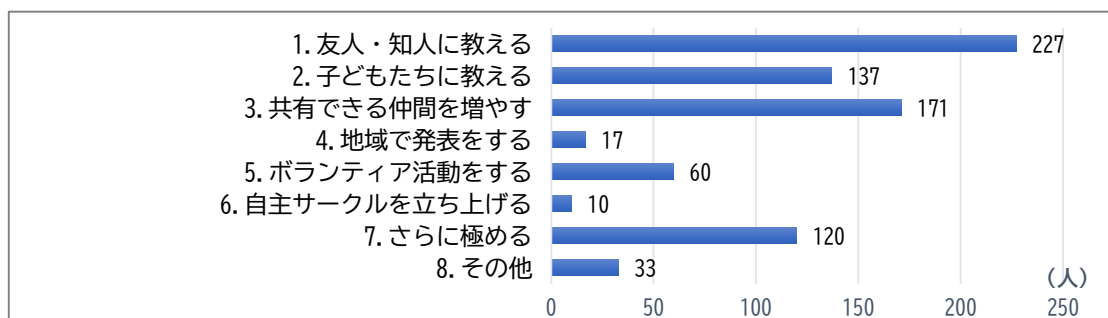
Q. 「12. 特に行ってない」を選んだ方⇒理由を３つ以内で選んでください。



Q. 生涯学習に関する情報をどのような方法で得られたら便利だと思いますか。



Q. 自分が得た知識、講座・イベントで学んだ知識やスキルをどのように活かしたいですか。



生涯学習に関する市民意識調査【１６歳以上の市民】（Ｒ６実施）

※対象 無作為に抽出した１６歳以上の市民 2,000 人（回答率：30.6%）

(4) 読書による生涯の学び - 読書のまちづくりの推進 -

① 現状と課題

本市は中央図書館・今立図書館の2館体制で「市読書のまち宣言」に基づいた図書館サービスを行っています。蔵書の更なる充実、地域性を持った特色ある資料の収集、利用者の多様な問い合わせに対するレファレンス機能(※用語解説)の強化、インターネットを活用した予約リクエストサービスや福井県公共図書館ネットワークシステム(※用語解説)を利用した資料提供など、いつでも、どこでも、誰でもが本に親しむことのできる環境づくりを行っています。

現在、スマートフォンの普及などが活字離れに大きな影響を与えている一方で、電子書籍など紙媒体にとらわれない読書の方法が広がりを見せています。また、高齢化の進行により直接図書館に来ることが難しい市民の増加や、書店の減少による本に触れられる機会の減少、読書ボランティアの高齢化、固定化、人材の不足という課題もあります。生涯の学びにつなげるため、読書活動ができる身近な居場所、読書手段の確保がより求められています。

② 方針

[生涯を通じた読書推進]

ア 市読書のまち宣言に基づき、赤ちゃんを愛情豊かに育てる「親子読み聞かせ」、子どもの読書習慣を育てる「朝読書(あさどく)・読み聞かせ」、親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ「家読書(うちどく)」、郷土の歴史や文化、伝統などに触れる「地域読書(まちどく)」、毎月第3土曜日を市民読書の日と定め「生涯読書(いきがいどく)」の取組みを進めます。

[地域における読書推進]

イ 教育施設や各施設への団体貸出などにより、市民に根ざした読書のまちづくりを持続的に推進します。

[新たな読書手段の確保]

ウ 新たな読書手段への対応として、県内の状況などをふまえ、電子書籍の導入を目指します。

[人材育成]

エ 読書活動に係わる市民ボランティアの支援、若年層のボランティア養成に努めます。

[情報発信]

オ 市HP、LINEなどのSNSを通じて、図書館や絵本館の行事や展示などの情報発信に努めます。

③ 関連する計画

- ・読書のまち宣言
- ・市子ども読書活動推進計画

④ 優先的に取り組む事業

- ア 市民のニーズに応じた様々なテーマの展示、行事、講座を開催することで、「生涯読書（いきがいどく）」、「地域読書（まちどく）」の推進
- イ 保護者など大人の読書に対する意識を啓発するため、親子向け行事、ブックスタート（※用語解説）事業などの実施による「親子読み聞かせ」、「家読書（うちどく）」の推進
- ウ 地域の読書拠点となる公民館や絵本カフェなどへ、本の定期貸出による支援の推進
- エ 電子書籍の導入
- オ 保護者を対象に読み聞かせなどの研修や講座の情報を積極的に発信し、読み聞かせなどを行うボランティアの人材発掘、ボランティアの活動支援と人材の育成
- カ 市HP、LINEなどのSNSを通じた図書館情報の発信
- キ 絵本館での絵本や紙芝居の行事・展示を通じ、幼少期の読書習慣を育む機会の充実



貴重資料展示（地域読書まちどく）



紫式部関連講座（地域読書まちどく）



夏の夜のおはなし会（生涯読書いきがいどく）



ふるほん市（生涯読書いきがいどく）

(5) 読書に親しむ、楽しむ － 子ども読書活動の推進 －

① 現状と課題

子どもの読書活動は越前市子ども読書活動推進計画(第3次)に基づき、家庭、地域、学校、図書館、などそれぞれの場所で読書活動を推進するため様々な取り組みを行っています。

しかし、小・中学生の読書時間の調査では、年齢が上がるにつれて読書離れが顕著です。高校生の不読率も改善されていません。その一方で、電子書籍が普及し、紙媒体にとらわれない読書の方法も広がりを見せています。また、少子高齢化や人間関係の希薄化などにより、読み聞かせなどの読書活動を支える人材も不足しています。

子どもたちの成長に読書は欠かせないものであり、読書が習慣として身につくような環境の整備や、子どもの読書活動を支える人材の育成、情報環境の変化が子どもの読書環境に与える影響の把握・分析をしていく必要があります。

② 方針

[子どもの読書環境整備]

ア 子どもが本と出会い、進んで読書する環境をつくるため、家庭・地域・学校・図書館などが連携し、読み聞かせやブックトーク(※用語解説)、団体貸出、子ども向け行事の充実などにより、読書活動を推進します。

イ かこさとしふるさと絵本館「硯」では、乳幼児期から絵本や紙芝居に親しむ機会を充実することで、子どもたちの創造力や探究心を育みます。

[新たな読書手段の確保]

ウ 新たな読書手段への対応として、県内の状況などをふまえ、電子書籍の導入を目指します。(再掲)

[人材育成]

エ 読書活動に係わる市民ボランティアを支援するとともに、若年層のボランティア養成に努めます。

③ 関連する計画

- ・読書のまち宣言
- ・市子ども読書活動推進計画

④ 優先的に取り組む事業

- ア 幼少期から成長に応じた読書機会の充実を図るため、館内での展示や行事、ブックスタート、ジュニア司書(※用語解説)養成講座、図書館が学校、保育施設へ出向いて行うブックトークや読み聞かせ、団体貸出の推進
- イ かこさとしふるさと絵本館「硯」での展示や行事などの企画の充実
- ウ 電子書籍の導入(再掲)
- エ 保護者に対し、読み聞かせ等の研修、講座の情報を積極的に発信し、読み聞かせなどを行うボランティアの人材発掘、ボランティアの活動支援と人材育成(再掲)



ジュニア司書講座（中央図書館）



ポルトガル語であそぼう！（中央図書館）



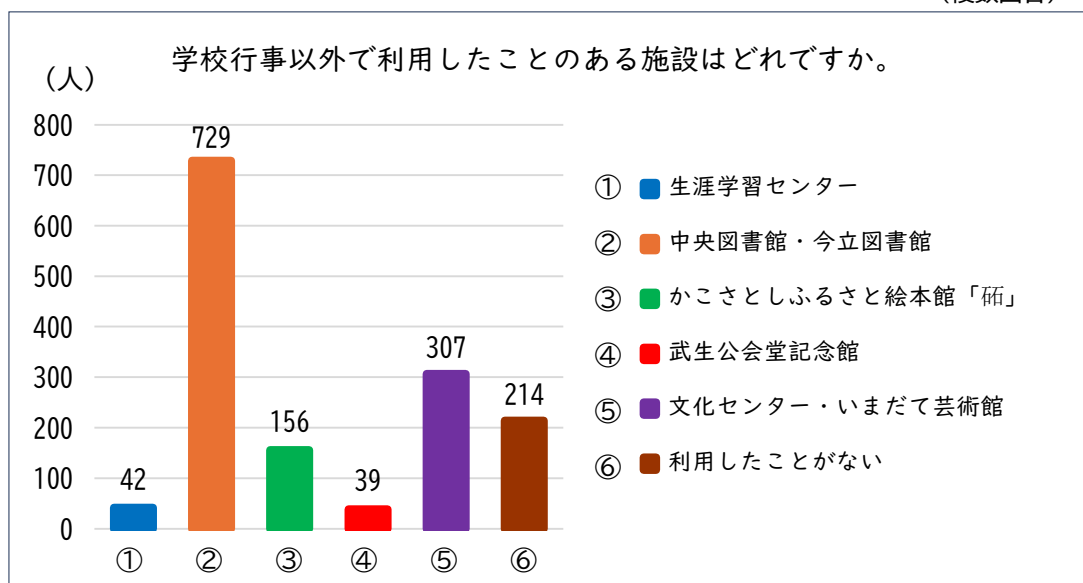
クイズ王決定戦（絵本館）



読み聞かせ（絵本館）

● 市民アンケートの結果（7）

（複数回答）



越前市の教育に関するアンケート〔児童・生徒〕（R6実施）

※対象 市内全小学校の6年生及び全中学校の3年生

1,372人（回答率：74.0%）

2 生涯スポーツで誰もが元気に幸せ実感

スポーツは、健康の保持増進や体力の維持向上とともに、人と人、地域と地域とのつながりを深め、人々が生きがいや夢、感動を実感することができるものです。

人生 100 年時代を迎え、ライフステージに応じてスポーツやウォーキング、散歩やレクリエーションなど健康づくりのために体を動かす運動に取り組むことは、幸せを実感しながら心身ともに健康で元気ある生活を過ごすうえで重要なことです。

現在、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しており、市民の生涯スポーツの推進を図るうえでは、中長期的な見通しに立ちながら、市民、スポーツ団体、企業、行政等が連携・協働して、市民が主体的にスポーツを楽しみ、地域での住民相互の交流も進むよう多角的かつ継続した取組みを展開していくことが重要です。

市民の誰もが年齢や性別、障がいの有無に関係なく、各々の興味、関心、適性等に応じて、身近で気軽にスポーツを「する・みる・ささえる」ことができる環境づくりを進め、生涯にわたってスポーツや運動に親しむことができる機会を充実させていきます。

(1) 人生 100 年時代、居場所と活躍の舞台づくりの推進

① 現状と課題

市民の「週1回以上」のスポーツ実施率は、55.2%（令和6年越前市「スポーツや運動」に関する市民意識調査）となっており、全国値（令和4年 52.1%）よりもやや高い結果となっています。しかしながら、年代別でみると30歳代や50歳代の勤労世代のスポーツ実施率が相対的に低い結果となっています。

また、少子化などにより子どもたちがスポーツに取り組む環境も大きく変化しています。子どもたちの生活の場である地域を活動の軸とした新たなスポーツ環境を構築することで、子どもたちがスポーツや運動に親しむことができる環境や機会を充実させていくことが重要です。

② 方針

〔活動の居場所と活躍の舞台づくりの推進〕

ア 市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、いきいきシニアクラブや障がい者団体など関連団体との連携や、スポーツ推進委員の活動の強化を図りながら、市民がそれぞれのライフステージに応じて、身近で気軽にスポーツや運動に親しめる機会が創出されていくことが重要です。

新たにスポーツや運動に取り組む市民の増加を図るために、気軽に取り組み、関心も高いウォーキング、サイクリングやニュースポーツの普及を促進するなど、市民が、楽しさや交流による絆を感じながら、スポーツや運動に親しみ、幸せを実感できる居場所と活躍の機会となる舞台づくりに取り組みます。

③ 関連する計画

- ・第2期 市スポーツ推進プラン
- ・第2期 市スポーツ施設再配置計画

④ 優先的に取り組む事業

- ア 年齢や障がいの有無に関係なく、スポーツや運動を始めるきっかけづくりとして、身近で気軽に参加できる各種スポーツ教室やスポーツ大会の開催
- イ ウォーキングコースの活用をはじめ、サイクリングやニュースポーツ(※用語解説)など身近なスポーツの普及促進
- ウ 地域における子どもの新たなスポーツ環境の構築
- エ 各種スポーツ団体、学校や企業と連携した競技力向上のための環境づくり
- オ 年齢に応じた食事(栄養)による体づくり、健康づくりの啓発促進



高齢者スポーツ交流大会（ボッチャ競技）



第43回菊花マラソン

(2) 新しいスポーツを活かした新たな居場所づくり

① 現状と課題

新しいスポーツといわれるコンピューターゲームなどのeスポーツ(※用語解説)や、BMX やスケートボードなどのアーバンスポーツ(※用語解説)など、スポーツの楽しみ方が拡大しています。これらの新しいスポーツは、市民の関心も高まっており人気と注目を集めています。

特にeスポーツは、幅広い世代の方が気軽に取り組むことができ、楽しみながら健康増進をはじめ、フレイル(※用語解説)予防にも効果が期待でき、地域や世代間の交流の活性化にもつながるスポーツです。

これらの新しいスポーツの普及を図ることで、スポーツや運動の選択肢を増やし、幅広い世代の方が集い、楽しむことができる機会を充実させていくことが必要です。

② 方針

[新しいスポーツを活かした新たな居場所づくり]

ア eスポーツやアーバンスポーツの活動団体をはじめ、市スポーツ協会などの関連団体との連携を図りながら、新しいスポーツの普及を図ることで、子どもから高齢者までの幅広い世代の方が集い、楽しみながら健康づくりに取り組み、夢や生きがいを感じることでできる新たな居場所づくりを進めます。

③ 関連する計画

- ・第2期 市スポーツ推進プラン
- ・第2期 市スポーツ施設再配置計画

④ 優先的に取り組む事業

- ア eスポーツやアーバンスポーツの普及促進のためのイベント等の開催や誘致
- イ 世代間の交流拡大やフレイル予防にもつながる、eスポーツやアーバンスポーツの体験会や教室の開催



BMX体験イベント（提供：福井県BMX連盟 F. A. S. T）

(3) スポーツ施設の環境整備

① 現状と課題

市内には、体育館、武道館、弓道場、庭球場、野球場など様々なスポーツ施設があり、日常的に多くの人が身近にスポーツに親しむ場として利用しています。また、災害時には市民の避難場所などとしても機能するものです。

しかしながら、スポーツ施設の多くは昭和50年代に整備されており、老朽化が進んでいます。今後は、人口減少など地域社会の動向や新たなスポーツをはじめ、市民のスポーツに対する取り組み方の状況を見据えつつ、より身近で気軽に利用できる施設として最適な配置を図りながら、効率的で効果的な運営・維持管理を行っていく必要があります。

② 方針

[スポーツ関連団体との連携によるスポーツ環境づくりの推進]

ア 施設利用者の安全安心を最優先に、身近で気軽にスポーツに親しむことができる居場所として、スポーツ関連団体との連携により、既存の仕組みを柔軟に見直し、最適な配置や運営手法に基づいたスポーツ環境づくりに取り組みます。

[新たな居場所のための環境整備]

イ 越前たけふ駅周辺エリアは、今後大きな発展が見込まれているとともに、新幹線、北陸自動車道武生インターチェンジ、国道8号などが近接する広域交通の結節点として、今後幅広い世代の方による多くの交流が期待できるエリアです。この新たなエリアにおいて、eスポーツやアーバンスポーツなどの新たなスポーツに親しむことができる環境や、交通結節点としての機能を活かしたスポーツツーリズム推進のための自転車の駅(サイクリングステーション)を整備することで、市民がスポーツや運動で新たに集い、エリアの賑わいの創出にもつながる特色ある新たな環境づくりを進めます。

③ 関連する計画

- ・第2期 市スポーツ推進プラン
- ・第2期 市スポーツ施設再配置計画

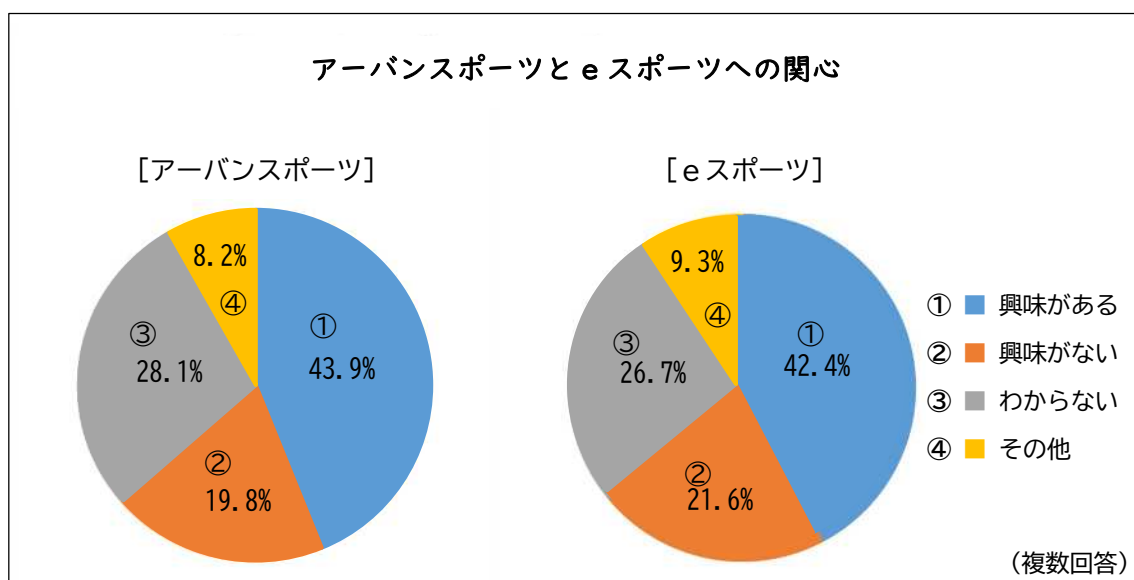
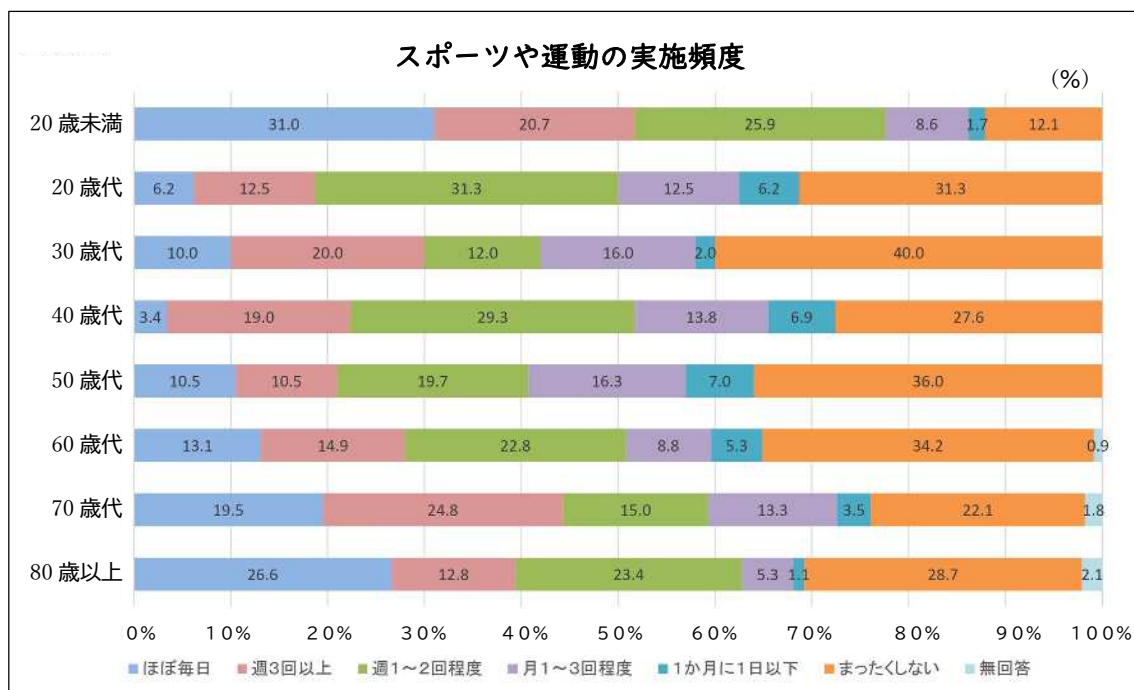
④ 優先的に取り組む事業

- ア 中長期的な視点による、安全安心を最優先に身近で気軽にスポーツや運動に親しむための施設の管理運営
- イ 越前たけふ駅周辺でeスポーツやアーバンスポーツが楽しめる環境の整備
- ウ 自転車の駅(サイクリングステーション)の整備



武生東運動公園
庭球場ナイター照明 (R6 年4月供用開始)

● 市民アンケートの結果（８）



※ 興味がある … 見たこと、やったことがある／今後見てみたい、やってみたい

越前市「スポーツや運動」に関する市民意識調査] [16歳以上の市民] (R6実施)

※対象 無作為に抽出した16歳以上の市民2,000人(回答率:30.6%)